



ゲートウェイの設定

Cisco CallManager は、Cisco IP テレフォニー ゲートウェイにより、非 IP 通信デバイスとの情報交換が可能になります。Cisco CallManager は、複数のタイプのゲートウェイをサポートしています (『Cisco CallManager システム ガイド』を参照)。

Cisco CallManager を使用した Cisco ゲートウェイの処理と設定については、次のトピックを参照してください。

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.69-2\)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.69-16\)](#)
- [ポートの設定値 \(P.69-61\)](#)
- [特定のゲートウェイの検索 \(P.69-67\)](#)
- [ゲートウェイとポートの変更 \(P.69-76\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 音声ゲートウェイの概要」

Cisco CallManager へのゲートウェイの追加

Cisco CallManager でネットワーク内の IP テレフォニー ゲートウェイを管理するには、まず、各ゲートウェイを Cisco CallManager 設定データベースに追加する必要があります。ゲートウェイを追加する場合の手順、ウィンドウ、および設定値は、追加するゲートウェイのモデルによって異なります。

Cisco CallManager で新規ゲートウェイを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** **Add New** ボタンをクリックします。Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、追加するゲートウェイのタイプを選択します。Device Protocol フィールドには、選択するゲートウェイのタイプにより自動的にデータが読み込まれる場合があります。
- ステップ 4** **Next** をクリックします。
- ステップ 5** 次の表で、設定するゲートウェイのタイプ用の手順をクリックします。正しい手順を選択した後、目的のゲートウェイのタイプに該当する設定値を入力するステップから始めます。
-

表 69-1 ゲートウェイ

ゲートウェイのタイプ	タイプ別の追加手順
Cisco Voice Gateway 200 (VG200) VG224 Gateway Cisco IOS 269X、26XX、362X、364X、366X、3725、3745 ゲートウェイ Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch Communication Media Module Cisco IAD2400	Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 (P.69-3)
Cisco IOS 269X、3725、3745 ゲートウェイ Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway Cisco DT-24+ または DE-30+ Digital Access Trunk Gateway	Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 (P.69-9) IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 (P.69-11)
H.323 モードで設定されたその他の Cisco IOS ゲートウェイ	Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 (P.69-12)
Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway	Analog Access ゲートウェイとポートの追加 (P.69-13)
Cisco VG248 Gateway	Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 (P.69-14)

Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco CallManager に追加し、設定する手順を説明します。MGCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco VG200 Cisco IP Telephony Voice Gateway
- VG224 Gateway
- Cisco IOS 362x、364x、366x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco IOS 26xx および 269x ゲートウェイ
- Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
- Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
- Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
- Communication Media Module
- Cisco IAD2400 ゲートウェイ



(注)

MRP/ASI ゲートウェイは、他の IOS MGCP ゲートウェイと同様、3 台の Cisco CallManager を含む Cisco CallManager グループとともに動作できます。しかし、ASI/MRP ゲートウェイのテストは、1 台のバックアップ Cisco CallManager だけを使用して実行されます。

始める前に

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco CallManager とともに使用するよう設定するには、事前に Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** **Add New** ボタンをクリックします。Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの MGCP ゲートウェイを選択します。
 - Cisco VG200
 - VG224
 - Cisco 362X、364X、366X ゲートウェイ
 - Cisco 3725 および 3745 ゲートウェイ
 - Cisco 26XX および 269X ゲートウェイ
 - Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
 - Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
 - Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
 - Communication Media Module
 - Cisco IAD2400 ゲートウェイ



(注) Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイも MGCP をサポートしていますが、設定が異なります。[P.69-11 の「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」](#)を参照してください。

Cisco IOS MGCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと Voice Interface Card (VIC; 音声インターフェイス カード) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、異なるデバイス プロトコルをサポートします。後続の Web ウィンドウには、これらのインターフェイスの設定が表示されます。

ステップ 4 **Next** をクリックします。

ステップ 5 Protocol ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、**MGCP** を選択し、**Next** をクリックします。表示されない場合は、[ステップ 6](#)に進みます。

ステップ 6 適切な Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します ([P.69-16 の「MGCP ゲートウェイの設定値」](#)を参照)。

ステップ 7 **Save** をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。

選択項目は、Gateway Configuration ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットにインストールされている VIC のタイプを選択し、**Save** をクリックします。

ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。

ステップ 9 エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加します。

詳細については、次の手順を参照してください。

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.69-5\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.69-6\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.69-9\)](#)

ステップ 10 **Reset** をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

ステップ 11 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

ステップ 12 エンドポイントの設定とポートの追加が終了した後、MGCP ゲートウェイ デバイスをルート グループまたはルート リストに追加するか、ルート パターンをゲートウェイに割り当てて、コールがゲートウェイにルーティングされるようにする必要があります。



(注) MGCP ゲートウェイをルート パターンに追加する必要があるのは、発信コールの場合だけです。

MGCP ゲートウェイへのポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイス カードのタイプによって異なります。ここでは、次の内容について説明します。

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.69-5\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.69-6\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.69-9\)](#)

MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加

Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、任意の POTS デバイスとの接続に使用できます。MGCP ゲートウェイで FXS ポートを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、[P.69-3](#) の「[Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択します。Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。または、FXS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。

ステップ 2 FXS ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力します。

ステップ 3 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。

ステップ 4 Gateway Configuration ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント ID をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 **Gateway Information** と **Port Information** に、適切な設定値を入力します。これらのフィールドの詳細については、次の各項を参照してください。

- [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-18\)](#)
- [POTS ポートの設定値 \(P.69-61\)](#)

ステップ 6 Save をクリックします。



(注) POTS ポートを追加した後、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウの下部にその POTS ポートの情報が表示されます。新しいポートの下に **Add a new DN** リンクが表示されます。

ステップ 7 **Add a new DN** をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合は、**ステップ 9** に進んでください。



(注) DN の追加と設定については、[P.49-4](#) の「電話番号の設定」および [P.49-9](#) の「電話番号の設定値」を参照してください。

ステップ 8 ポートを追加したゲートウェイの MGCP Gateway Configuration メイン ウィンドウに戻るには、Related Links ドロップダウンリストボックスで **Back to MGCP Configuration** をクリックし、**Go** をクリックします。

ステップ 9 **Reset** をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

ステップ 10 **ステップ 4** ~ **ステップ 8** を繰り返して、他の FXS ポートを追加します。

追加情報

[P.69-79](#) の「関連項目」を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加

Foreign Exchange Office (FXO) ポートは、セントラル オフィスまたは PBX との接続に使用できません。MGCP ゲートウェイ上で、ループ スタートまたはグラウンド スタート用に FXO ポートを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager は、すべてのループ スタート トランクには、Positive Disconnect Supervision (確実な接続解除監視) がないものと想定します。Cisco CallManager サーバのフェールオーバー時にアクティブ コールを保持できるように、確実な接続解除監視を備えたトランクを、グラウンド スタートとして設定してください。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、[P.69-3](#) の「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択します。Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。または、FXO ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
- ステップ 2** FXO ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力し、**Find** をクリックします。検索結果が表示されます。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** MGCP Configuration ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、**Ground Start** か **Loop Start** のどちらかを選択します。



(注) VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント ID の同じポート タイプを選択する必要があります。異なるポート タイプを選択すると、メッセージが表示されます。

- ステップ 6** 次の各項の説明に従って、適切な **Gateway Configuration** および **Port Information** の設定値を入力します。
- [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-18\)](#)
 - [ループ スタート ポートの設定値 \(P.69-63\)](#)
 - [グラウンド スタート ポートの設定値 \(P.69-64\)](#)
- ステップ 7** **Save** をクリックします。
- ステップ 8** ポートを追加したゲートウェイの MGCP Gateway Configuration メイン ウィンドウに戻るには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスで **Back to MGCP Configuration** をクリックし、**Go** をクリックします。
- ステップ 9** **Reset** をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
- ステップ 10** 他の FXO ポートを追加するには、[ステップ 4](#)～[ステップ 7](#)を繰り返します。
-

追加情報

[P.69-79](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加

MGCP ゲートウェイに Digital Access T1 (T1-CAS) ポートを追加する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択します。Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。または、T1-CAS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
 - ステップ 2** Digital Access T1 (T1-CAS) ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。
 - ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
 - ステップ 4** Gateway Configuration ウィンドウから、設定する Digital Access T1 (T1-CAS) ポートのエンドポイント ID をクリックします。

Device Protocol ドロップダウン リスト ボックスで、**Digital Access T1** を選択し、**Next** をクリックします。

選択するポート タイプの設定値については、[P.69-61](#) の「[ポートの設定値](#)」を参照してください。
 - ステップ 5** 適切な Gateway Configuration 設定値を入力します。詳細については、[P.69-42](#) の「[Digital Access T1 の設定値](#)」を参照してください。
 - ステップ 6** **Save** をクリックします。
 - ステップ 7** **Reset** をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
-

追加情報

[P.69-79](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加

-
- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択します。Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
 - ステップ 2** T1 PRI または E1 PRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために、適切な検索条件を入力します。
 - ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
 - ステップ 4** Gateway Configuration ウィンドウから、設定する T1 PRI ポートまたは E1 PRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
 - ステップ 5** T1 PRI または E1 PRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、[P.69-22](#) の「[Digital Access PRI ポートの設定値](#)」を参照してください。

ステップ 6 Save をクリックします。

ステップ 7 Reset をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイス カード (VIC) のタイプによって異なります。MGCP ゲートウェイに BRI ポートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。Find/List Gateways ウィンドウが表示されます。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。

ステップ 2 BRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。

ステップ 3 リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。

ステップ 4 MGCP Configuration ウィンドウから、設定する BRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。

ステップ 5 BRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、[P.69-34](#) の「[BRI ゲートウェイの設定値](#)」を参照してください。

ステップ 6 Save をクリックします。

ステップ 7 ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS SCCP ゲートウェイを Cisco CallManager に追加し、設定する手順を説明します。SCCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco IOS 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco VG224 Gateway

始める前に

事前に Cisco CallManager にゲートウェイを追加して、Cisco IOS SCCP ゲートウェイを設定します。続いて、Cisco IOS コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定します。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Add New をクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、次の SCCP ゲートウェイのいずれかを選択します。

- Cisco IOS 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ

ステップ 4 Protocol ドロップダウン リスト ボックスから、SCCP プロトコルを選択します。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、SCCP をサポートします。後続の Web ウィンドウには、インターフェイスの設定が表示されます。

ステップ 5 Next をクリックします。

この SCCP ゲートウェイ用の Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します (P.69-58 の「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」を参照)。

ステップ 7 Save をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。

選択項目は、Gateway Configuration ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットにインストールされている VIC のタイプを選択し、Save をクリックします。

ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。

ステップ 9 エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加し、SCCP ゲートウェイに FXS/BRI ポートを追加します。アナログ電話機の設定の詳細については、P.70-1 の「Cisco IP Phone の設定」および P.70-7 の「電話機の設定値」を参照してください。

ステップ 10 ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

ステップ 11 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加

次の IOS 以外の Cisco MGCP ゲートウェイを Cisco CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

- Cisco DT-24+ Gateway
- Cisco DE-30+ Gateway
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。

ステップ 2 **Add New** ボタンをクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、次のデジタル ゲートウェイのいずれかを選択し、**Next** をクリックします。

- Cisco DT-24+ Gateway
- Cisco DE-30+ Gateway
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

ステップ 4 ドロップダウン リスト ボックスから、選択したゲートウェイ上で設定するインターフェイスのタイプに適したデバイス プロトコルを選択します。選択可能な項目は、ゲートウェイのモデルに応じて異なります。

- Cisco DT-24+ Gateway または Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway : Digital Access PRI または Digital Access T1 を選択します。
- Cisco DE-30+ Gateway または Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway : Digital Access PRI デバイス プロトコルが自動的に選択され、Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。ステップ 6 に進みます。

ステップ 5 **Next** をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 Digital Access PRI インターフェイスを設定するか、Digital Access T1 インターフェイスを設定するかに応じて、適切な設定値を入力します（次の各項を参照）。

- [Digital Access PRI ポートの設定値 \(P.69-22\)](#)
- [Digital Access T1 の設定値 \(P.69-42\)](#)

ステップ 7 **Save** をクリックします。

ステップ 8 DT-24+ または Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway で Digital Access T1 インターフェイスを設定する場合は、ウィンドウの左側に表示される Ports ペインで、**Add a New Port** リンクをクリックして、ポートを設定します。

[P.69-8 の「MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加」](#) を参照してください。

ステップ 9 **Reset** をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

追加情報

[P.69-79 の「関連項目」](#) を参照してください。

Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco CallManager と連携させて使用するようには設定するには、事前に、Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。MGCP ゲートウェイと比較すると、H.323 ゲートウェイの方が、ゲートウェイでの設定が多くなります。これは、H.323 ゲートウェイが、ダイヤルプランとルートパターンを保持する必要があるためです。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。

ステップ 2 **Add New** ボタンをクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、**H.323 Gateway** を選択します。

ステップ 4 **Next** をクリックします。

ステップ 5 適切な設定値を入力します ([P.69-46 の「H.323 ゲートウェイの設定値」](#) を参照)。

ステップ 6 **Save** をクリックします。

ステップ 7 **Reset** をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Analog Access ゲートウェイとポートの追加

次の非 Cisco Analog Access ゲートウェイを追加し、ポートを設定する手順は、次のとおりです。

- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。

ステップ 2 **Add New** ボタンをクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、サポートされているアナログ ゲートウェイを選択します。

- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway

ステップ 4 **Next** をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切な設定値を入力します (P.69-54 の「[Analog Access ゲートウェイの設定値](#)」を参照)。

ステップ 6 **Save** をクリックします。

ステップ 7 このゲートウェイにポートを追加するには、ウィンドウの左側に表示される Ports ペインで、**Add a New Port** リンクをクリックします。

Port Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから、ポート タイプとして **POTS** を選択し、**Next** をクリックします。

ステップ 9 適切なポートの設定値を入力します (P.69-61 の「[POTS ポートの設定値](#)」を参照)。

ステップ 10 **Save** をクリックします。

POTS ポートを追加した場合、ウィンドウの内容が更新され、ウィンドウの左側に、その POTS ポートが表示されます。新しいポートの右側に、**Add DN** リンクが表示されます。

ステップ 11 **Add DN** をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。

電話番号の追加と設定については、[P.49-4](#) の「[電話番号の設定](#)」および [P.49-9](#) の「[電話番号の設定値](#)」を参照してください。

ステップ 12 POTS ポートの追加と POTS ポートの電話番号の設定が完了したら、Gateway Configuration ウィンドウに戻ります。Related Links ドロップダウンリストボックスで、Configure Device を選択し、Go をクリックします。

ステップ 13 **Reset** をクリックして、変更内容を適用します。

追加情報

[P.69-79](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加

Cisco VG248 Analog Phone Gateway は、ラック取り付け型のスタンドアロン 48-FXS ポート製品です。このゲートウェイを使用すると、複数の構内アナログ電話機、FAX マシン、モデム、ボイスメッセージシステムやスピーカフォンを、1 つの Cisco CallManager クラスタに登録することができます。

Cisco VG248 は、機能の拡張に備え、Skinny Client Control Protocol を使用して Cisco CallManager に接続されます。

Cisco CallManager は、Cisco VG248 を「Cisco VG248 Gateway」と呼ばれるゲートウェイ デバイスとして認識します。さらに、48 個のポートを、それぞれ「Cisco VGC Phone」と呼ばれる Cisco IP Phone に似た個別デバイスとして扱います。

Cisco VG248 Gateway を追加して、このゲートウェイにポートを追加および設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。

ステップ 2 **Add New** ボタンをクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Gateway Type ドロップダウンリストボックスから、**Cisco VG248 Gateway** を選択します。

ステップ 4 **Next** をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切な設定値を入力します ([P.69-57](#) の「[Cisco VG248 Gateway の設定値](#)」を参照)。

ステップ 6 Configured Slots, VICs and Endpoints ドロップダウンリストボックスから、48_PORTS を選択します。

ステップ 7 **Save** をクリックします。

Configured Slots, VICs, and Endpoints 領域に、ポート 0 ~ 48 が表示されます。

ステップ 8 1 つのポートをクリックします。

Phone Configuration ウィンドウに、Cisco VGCPPhone として電話機のモデルがリスト表示されます。Gateway Configuration ウィンドウから、MAC アドレスが自動的に見えるようになります。

ステップ 9 適切な設定値を入力します (P.70-7 の「電話機の設定値」を参照)。

ステップ 10 **Save** をクリックします。

ステップ 11 ポートの電話番号を設定するには、ウィンドウの左側の Association Information 領域に表示される **Add a New DN** リンクをクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。電話番号の追加と設定については、P.49-4 の「電話番号の設定」を参照してください。

ステップ 12 ゲートウェイの別のポートを設定するには、Related Link ドロップダウン リスト ボックスから **Back to Gateway** リンクを選択し、**Go** をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。別のポートについて電話機の設定値と電話番号を設定するには、ステップ 8 ~ 11 を繰り返します。

ポート 1 を設定する場合は、Gateway Configuration ウィンドウに **Create all Ports like Port 1** ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、ポート 1 と同じパラメータおよび設定値で、ポート 2 ~ 48 を設定できます (ポート 2 ~ 48 が設定済みかどうかは関係ありません)。

ステップ 13 **Reset** をクリックして、変更内容を適用します。

追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

ゲートウェイの設定値

すべてのゲートウェイ設定フィールドの詳細な説明は、次のトピックを参照してください。

- [MGCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-16\)](#)
- [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-18\)](#)
- [Digital Access PRI ポートの設定値 \(P.69-22\)](#)
- [BRI ゲートウェイの設定値 \(P.69-34\)](#)
- [Digital Access T1 の設定値 \(P.69-42\)](#)
- [H.323 ゲートウェイの設定値 \(P.69-46\)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \(P.69-54\)](#)
- [Cisco VG248 Gateway の設定値 \(P.69-57\)](#)
- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-58\)](#)

ポートの設定値の詳細については、[P.69-61](#) の「[ポートの設定値](#)」を参照してください。

MGCP ゲートウェイの設定値

[表 69-2](#) では、MGCP ゲートウェイの設定値について詳しく説明します。

表 69-2 MGCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
ゲートウェイの詳細	
Domain Name	<p>Cisco MGCP ゲートウェイを識別する名前を 50 文字以内で入力します。</p> <p>Domain Name Service (DNS) ホスト名が正しく解決されるように設定されている場合は、DNS ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイ上で指定されているとおりのホスト名を使用します。</p> <p>IOS ゲートウェイ上で設定されているとおりのホスト名を使用する場合は、ここで入力する名前が、そのホスト名と正確に一致する必要があります。</p> <p>たとえば、ホスト名が <code>vg200-1</code> に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が未設定の場合は、このフィールドにはホスト名を入力します（この場合、<code>vg200-1</code>）。</p> <p>ゲートウェイ上でホスト名が <code>vg200-1</code> として設定され、IP ドメイン名が <code>cisco.com</code> として設定されている場合、このフィールドには <code>vg200-1.cisco.com</code> と入力します。</p>
Description	<p>デバイスの目的を明確にした説明を入力します。</p>
Cisco CallManager Group	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco CallManager 冗長グループには、最高 3 台の Cisco CallManager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、プライマリ Cisco CallManager の役目をします。プライマリ Cisco CallManager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco CallManager に接続しようとします。</p>

表 69-2 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Configured Slots, VICs, and Endpoints	
 (注)	VIC の開始ポート番号を指定する必要なものがあります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC では 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) する必要があります。
 (注)	MGCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます (VG200 ゲートウェイには、1 つのスロットしかありません)。
 (注)	モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、 Save をクリックしてください。
Module in Slot 0 Module in Slot 1 Module in Slot 2 Module in Slot 3 (以下、同様)	選択した MGCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。たとえば、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • NM-1V : Subunit 0 に、FXS または FXO 用の音声インターフェイスカード (VIC) を 1 つ装備。NM-1V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、2 番目の BRI ポートがシャットダウンされるため、2 つのコールを行うことができます。 • NM-2V : FXS または FXO 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。NM-2V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、4 つのコールを行うことができます。別の VIC が NM-2V の 2 番目のスロットにある場合、VIC-2BRI-S/T-TE の 2 番目のポートがシャットダウンします。 • NM-HDV : Subunit 0 に、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を 1 つ装備。 • NM-HAD : VIC を、Subunit 0、Subunit 1、および Subunit 2 に 1 つずつ、合計 3 つ装備。 • VWIC-SLOT : 次のいずれかのモジュール用のスロットを装備。VIC (FXS、FXO、または BRI)、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用のスロットを 1 つ装備。 • AIM-VOICE-30 : T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • WS-X6600-24FXS : FXS ポートを 24 個装備。 • WS-X6600-6T1 : T1 PRI または CAS 用のポートを 6 つ装備。 • WS-X6600-6E1 : E1 PRI 用のポートを 6 つ装備。 • WS-SVC-CMM-MS : ヨーロッパおよびその他の国の T1 インターフェイス用と E1 インターフェイス用に 1 つずつ、合計 2 つを装備。 • None : ネットワーク モジュールの装備なし。

表 69-2 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

FXS/FXO ポートの設定値

表 69-3 では、FXS/FXO ポートの設定値について詳しく説明します。



(注)

VG200 ゲートウェイの場合、すべてのスイッチ エミュレーション タイプが、ネットワーク側をサポートしているわけではありません。ゲートウェイ スイッチ タイプの設定内容によって、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
Description	<p>Cisco CallManager は、アナログ MGCP の説明を一意に識別する文字列を生成します。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>AALN/S0/SU1/1@domain.com</p> <p>このフィールドは、編集可能です。</p>
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
Media Resource Group List	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p>

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート 指定方法を決定するために検索される、ルート パーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters ペインで Max List Box Items に値を入力します。</p>
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。</p> <p>送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報	
MLPP Domain	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Off : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • On : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
MLPP Preemption	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Disabled : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • Forceful : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
ポート情報 (POTS)	
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Inbound : 着信コールのみの場合に使用します。 • Outbound : 発信コールのみの場合に使用します。 • Bothways : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
Prefix DN (for FXS ports)	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Num Digits (for FXS ports)	<p>収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、有効数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。</p>
Expected Digits (for FXS ports)	<p>トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。</p>
SMDI Port Number (0-4096)	<p>ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。</p> <p>SMDI Port Number は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。</p> <p> (注) ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致している必要があります。</p>
Unattended Port	<p>このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。</p>
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Digital Access PRI ポートの設定値

表 69-4 では、Digital Access PRI ポートの設定値について詳しく説明します。



(注) 使用しているゲートウェイが QSIG プロトコルをサポートしているかどうかを確認するには、ゲートウェイの製品マニュアルを参照してください。Cisco CallManager での QSIG サポートについては、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
Endpoint Name	<p>MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco CallManager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。</p>
MAC Address	<p>ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。</p> <p>12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。</p>
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
Call Classification	<p>このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうか決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを None に設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Load Information	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。 このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルトファームウェア ロードを上書きします。
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。 送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。 受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスが属するデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。  (注) <u>トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</u>
V150 (subset)	v150 (subset) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。 デフォルト値は、オフです。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報	
MLPP Domain	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
MLPP Indication	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Off : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • On : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
MLPP Preemption	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Disabled : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • Forceful : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
インターフェイス情報	
PRI Protocol Type	<p>スパン用の通信プロトコルを選択します。</p> <p>T1 PRI スパンには、通信事業者またはスイッチに応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PRI 4ESS : AT&T 長距離電話会社。 • PRI 5E8 Custom : Cisco IP Phone。 • PRI 5E9:AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 • PRI DMS : MCI ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者、カナダ ローカル交換通信事業者。 • PRI ETSI SC : T1 のヨーロッパ ローカル交換通信事業者。また、日本、台湾、韓国、香港のローカル交換。 • PRI NI2:AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 • PRI NTT : 日本の NTT 交換スイッチ。 • PRI ISO QSIG T1 : ISO QSIG を使用する PBX T1 専用トランク。 • PRI ISO QSIG E1 : ISO QSIG を使用する PBX E1 専用トランク。 <p>接続先のスイッチおよび推奨プロトコルを、次のように判別してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Nortel Meridian : DMS、5E8 Custom • Lucent Definity : 4ESS または 5E8 • Madge (Teleos) box : 5E8 Teleos • Intecom PBX : 5E8 Intecom
Protocol Side	<p>適切な Protocol Side を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両側で、反対の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続されているときに、その PBX が Protocol Side として User を使用する場合は、このデバイスには Network を選択してください。一般に、セントラル オフィス接続では、このオプションに User を使用します。</p>
Channel Selection Order	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、TOP_DOWN (最初から最後) または BOTTOM_UP (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、TOP_DOWN を選択してください。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Channel IE Type	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネル マップとして提示されるか、スロット マップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Timeslot Number : B チャンネルの使用は、常に実際のタイムスロット マップ形式 (E1 の場合は 1-15 および 17-31 など)。 Slotmap : B チャンネルの使用は、常にスロット マップ形式。 Use Number When 1B : チャンネルの使用は、1 つの B チャンネルの場合はチャンネル マップ形式で、複数の B チャンネルが存在する場合はスロット マップ形式。 Continuous Number : E1 論理チャンネル番号として、連続しない実際のタイムスロット番号 (1-15 および 17-31) ではなく、連続するスロット番号 (1-30) を設定します。
PCM Type	<p>デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> a-law : ヨーロッパおよびその他の地域で使用。 mu-law : 北米、香港、台湾、および日本で使用。
Delay for first restart (1/8 sec ticks)	<p>スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の PRI スパンが使用可能であるときに、Inhibit Restarts at PRI Initialization チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。</p>
Delay between restarts (1/8 sec ticks)	<p>再起動間の時間を入力します。Inhibit Restarts チェックボックスがオフになっている場合、PRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。</p>
Inhibit restarts at PRI initialization	<p>RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージは、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージも SERVICE メッセージも送信されない場合、Cisco CallManager は、ポートがイン サービスであると見なします。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、D チャンネルは、別の PRI の D チャンネルと正常に接続されると、RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージを送信します。</p>
Enable status poll	<p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco CallManager の拡張サービス パラメータ (Change B-Channel Maintenance Status) を使用可能にできます。このサービス パラメータによって、MGCP T1/E1 PRI ゲートウェイのサービスから、リアルタイムで個々の B チャンネルを使用することができます。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、サービス パラメータ「Change B-Channel Maintenance Status」を使用不可にできます。</p> <p> (注) デフォルトでは、このフィールドはオフです。</p>
Unattended Port	<p>このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
コール ルーティング情報：着信コール	
Significant Digits	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32、または All)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。All を選択した場合、Cisco CallManager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>EXAMPLE Digits received are 123456. Significant digits setting is 4. Digits translated are 3456.</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
Prefix DN	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
コール ルーティング情報 : 発信コール	
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が発信コールで「許可された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信コールで「制限された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。
Called party IE number type unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling party IE number type unknown	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。
Number of digits to strip	<p>発信コール上で除去される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、除去される桁数が 3 である場合、Cisco CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>
Caller ID DN	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 • 555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。
SMDI Base Port	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルート リストまたはルート グループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。</p>
PRI Protocol Type 固有の情報	
Display IE Delivery	<p>発信側と接続された側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および NOTIFY メッセージ (DMS プロトコルの場合) 内で、表示情報要素 (IE) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Redirecting Number IE Delivery : Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
Redirecting Number IE Delivery : Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
Send Extra Leading Character in Display IE	<p>DisplayIE フィールドに特殊先行文字バイト (ASCII 以外の表示不能なバイト) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Display IE フィールドからこの文字バイトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスが適用されるのは、DMS-100 プロトコルと DMS-250 プロトコルに限られます。</p> <p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフになっています)。</p>
Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフになっています)。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco CallManager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンド リングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco CallManager に関連しています。</p>
MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero	<p>チャンネル番号拡張ビットを 0 に設定するには、チェックボックスをオンにします。この拡張ビットを 1 に設定するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>この設定は、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Send Calling Name in Facility IE	<p>Facility IE フィールドにある発信側の名前を送信するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、Cisco CallManager はこのチェックボックスをオフにします。</p> <p>この機能は、ISDN 発信側のネーム デリバリ用に使用可能になっている PRI インターフェイスを持つプライベート ネットワークに対して設定します。このチェックボックスがオンの場合、発信側の名前は SETUP または FACILITY メッセージの Facility IE に送られるため、名前を着信側のデバイス上に表示できます。</p> <p>この機能を設定できるのは、プライベート ネットワーク内の PRI トランクだけです。PSTN に接続された PRI トランクには、この機能を設定しないでください。</p> <p> (注) このフィールドが適用されるのは、NI2 プロトコルに限られます。</p>
Interface Identifier Present	<p>Interface Identifier が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、Cisco CallManager はこのチェックボックスをオフにします。</p> <p>この設定値は、SETUP、CALL PROCEEDING、ALERTING、および CONNECT メッセージの Channel Identification 情報要素内で、デジタル アクセス ゲートウェイ用の DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>
Interface Identifier Value	<p>PBX プロバイダーから入手した値を入力します。</p> <p>このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルに限られます。有効値の範囲は 0 ~ 255 です。</p>
Connected Line ID Presentation (QSIG Inbound Call)	<p>Cisco CallManager で、接続された側の電話番号を着信側の電話機に表示させるか、ブロックさせるかを選択します。</p> <p>このフィールドは、QSIG プロトコルを使用しているゲートウェイのみに適用されます。ゲートウェイは、この設定を着信コールのみに適用します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が「許可された接続側の回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示できるようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が「制限された接続側の回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示されるのをブロックする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
UUIE の設定値	
Passing Precedence Level Through UUIE	MLPP 情報が PRI 4ESS UUIE フィールドを通過できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチとの相互作用に使用されます。 PRI 4ESS の PRI Protocol Type 値がこのゲートウェイに指定されている場合に限り、システムによってこのチェックボックスが使用可能になります。 デフォルト値は、オフです。
Security Access Level	セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効値は 00 ~ 99 です。Passing Precedence Level Through UUIE チェックボックスがオンの場合に限り、このフィールドを使用できます。デフォルト値は 2 です。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、 Product Specific Configuration 見出しの右にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

BRI ゲートウェイの設定値

表 69-5 では、BRI の設定値について詳しく説明します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
End-Point Name (MGCP ゲートウェイ)	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco CallManager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。 次の例を参考にしてください。 BRI/S1/SU0/P0@SC3640.cisco.com S1 はスロット 1、SU0 はサブユニット 0、P0 はポート 0 を示し、@SC3640.cisco.com は MGCP ドメイン名を示します。
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>このデバイスに対して、デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含むプロパティの集合を指定します。</p>
Call Classification	<p>このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうかによって決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p>
Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Media Resource Group List	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p>
Location	<p>このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
インターフェイス情報	
BRI Protocol	<p>スパン用の通信プロトコルを選択します。</p> <p>BRI-NET3</p>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Protocol Side	<p>適切な Protocol Side を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。</p> <p> (注) BRI は User Side だけをサポートします。</p>
Channel Selection Order	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、TOP_DOWN (最初から最後) または BOTTOM_UP (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、TOP_DOWN を選択してください。</p>
PCM Type	<p>デジタルエンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • a-law : ヨーロッパおよびその他の地域で使用。 • mu-law : 北米、香港、台湾、および日本で使用。
Delay for First Restart (1/8 sec ticks)	<p>スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の BRI スパンが使用可能であるときに、Inhibit Restarts at BRI Initialization チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。</p>
Delay Between Restarts (1/8 sec ticks)	<p>再起動間の時間を入力します。Inhibit Restarts チェックボックスがオフになっている場合、BRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。</p>
Inhibit Restarts at BRI Initialization	<p>RESTART メッセージは、BRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージが送信されない場合、Cisco CallManager は、ポートがイン サービスであると見なします。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、データ リンクは、別の BRI データ リンクと正常に接続されると、RESTART メッセージを送信します。</p>
Enable Status Poll	<p>Debug ウィンドウに B チャンネルの状況を表示するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
Establish Datalink on First Call	<p>ゲートウェイが Cisco CallManager に登録されると、Cisco CallManager はゲートウェイへのデータ リンクを確立します。</p> <p>最初のコールで Terminal Endpoint Identifier (TEI; 端末終端識別子) が決まるようにゲートウェイおよびスイッチを設定する場合、チェックボックスをオンにすると、最初のコールでデータ リンクを確立できます。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
コール ルーティング情報 : 着信コール	
Significant Digits	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32、または All)。Cisco CallManager は、有効数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。All を選択した場合、Cisco CallManager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>EXAMPLE Digits received are 123456. Significant digits setting is 4. Digits translated are 3456.</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、BRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。</p>
Calling Search Space	適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。
AAR Calling Search Space	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Prefix DN	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
コール ルーティング情報 : 発信コール	
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>発信側の表示を変更しない場合は、Default を選択します。Cisco CallManager が発信者 ID を送信するようにする場合は、Allowed を選択します。Cisco CallManager が発信者 ID を送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初の転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後の転送デバイスの電話番号を送信します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called party IE number type unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できません。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。 • International : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤルプランが不明です。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
Calling party IE number type unknown	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できません。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。 • International : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤルプランが不明です。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager : Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。 • ISDN: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤルプランが不明です。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager : Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。 • ISDN: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤルプランが不明です。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
Number of digits to strip	<p>発信コール上で除去される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、除去される桁数が 3 である場合、Cisco CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>発信者 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。
BRI Protocol Type 固有の情報	
Redirecting Number IE Delivery : Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>
Redirecting Number IE Delivery : Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフになっています)。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco CallManager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンドリングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco CallManager に関連しています。</p>
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Digital Access T1 の設定値

表 69-6 では、Digital Access T1 の設定値について詳しく説明します。

表 69-6 Digital Access T1 の設定値

フィールド	説明
MAC Address (IOS 以外のゲート ウェイ)	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハード ウェア デバイスを一意に識別します。 12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
Domain Name	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、 Cisco CallManager が生成した、MGCP デジタル インターフェイスを一意 に識別する文字列が含まれています。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、 @VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。
 <p>(注) MAC アドレスかドメイン名の、どちらか適用される方を入力してください。</p>	
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択しま す。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロ パティの集合を指定します。
Call Classification	このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによ って決定します。 Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、 Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうか が決定します。 このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警 告トーンを提供します。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。 アプリケーションは、Media Resource List で定義された優先順位に従って、 使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、 Music On Hold サーバを選択します。
Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する 暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合 だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の 原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。

表 69-6 Digital Access T1 の設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルート パーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
MLPP Domain	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。

表 69-6 Digital Access T1 の設定値 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生するデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Off : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • On : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
MLPP Preemption	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Disabled : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • Forceful : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
Handle DTMF Precedence Signals	このゲートウェイが特殊な DTMF 信号を MLPP 優先レベルとして解釈できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
Load Information	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。 このフィールドに入力された値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。
Port Selection Order	チャンネルまたはポートが発信コールに割り当てられる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。 有効な入力値には、 Top Down (最初から最後) または Bottom Up (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、 Top Down を選択してください。

表 69-6 Digital Access T1 の設定値 (続き)

フィールド	説明
Digit Sending	<p>アウトダイヤル用に、次の Digit Sending タイプのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> DTMF : Dual-Tone Multifrequency (2 重トーン多重周波数)。通常のプッシュホン式ダイヤリング。 MF : Multifrequency (多重周波数)。 PULSE : パルス (ロータリー) ダイヤリング。
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
SMDI Base Port	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルート リストまたはルート グループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。</p>
V150 (subset)	<p>v150 (subset) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

H.323 ゲートウェイの設定値

表 69-7 では、H.323 ゲートウェイの設定値について説明します。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
Device Name	デバイスを識別するために Cisco CallManager が使用する固有の名前を入力します。IP アドレスまたはホスト名をデバイス名として使用します。
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
Call Classification	このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。 Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうかを決定します。 このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Packet Capture Mode	このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。
Packet Capture Duration	このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Tunneled Protocol	<p>H.323 ゲートウェイを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco CallManager から他の Aneex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、QSIG オプションを選択します。QSIG トンネルは、次の機能をサポートします: Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、Message Waiting Indication、および Path Replacement。</p> <p> (注) Annex M.1 機能とサードパーティ ベンダーとの互換性については、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。</p>
Signaling Port	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートの値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。</p>
Media Termination Point Required	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) をインプリメントするのに、メディア ターミネーション ポイントを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set メッセージをサポートしない H.323 デバイスだけに、このチェックボックスを使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗します。コール制御はルート / ハント リスト内でコールを再ルーティングします。自動代替ルーティング (AAR) が設定済みで使用可能であれば、コール制御はルート リストとハント リスト間でもコールを再ルーティングします。</p>
Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、H.245 Terminal Capability Set に送信するように指定します。Cisco CallManager がケイパビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p> (注) H.323 エンドポイントと H.320 エンドポイント間の ISDN コールに、H.320 ゲートウェイ経由のコールを可能にするには、このチェックボックスをオフにします。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Path Replacement Support	<p>このチェックボックスが表示されるのは、Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合です。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス変換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。QSIG Tunneled Protocol オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。</p> <p>送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
SRTP Allowed	<p>ゲートウェイを介したセキュア コールとノンセキュア コールを Cisco CallManager で許可する場合は、SRTP Allowed チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、Cisco CallManager はゲートウェイとの SRTP ネゴシエーションを防止し、RTP を使用します。</p> <p> 注意 このチェックボックスをオンにする場合は、コール ネゴシエーション中に鍵やその他のセキュリティ関連情報を暴露しないよう、IPSec を設定することを強くお勧めします。IPSec を正しく設定しないと、Cisco CallManager とゲートウェイ間のシグナリングがノンセキュアになります。</p> <p>ゲートウェイの暗号化の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報	
MLPP Domain	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
MLPP Indication	このデバイス タイプには、この設定はありません。
MLPP Preemption	このデバイス タイプには、この設定はありません。
コール ルーティング情報：着信コール	
Significant Digits	有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。 収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。
Calling Search Space	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるルート パーティションの集合を指定します。 Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。  (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、 System > Enterprise Parameters の順に選択し、 CCMAdmin Parameters を選択します。
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Prefix DN	着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。 Cisco CallManager は、まず、Significant Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Redirecting Number IE Delivery: Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
Enable Inbound FastStart	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco CallManager サーバで Enable Inbound FastStart チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p> (注) 他のクラスタの Cisco CallManager 3.3(2) サーバをサポート パッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>
コール ルーティング情報：発信コール	
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が発信コールで「許可された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信コールで「制限された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called party IE Number Type Unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
Calling party IE Number Type Unknown	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。
Display IE Delivery	<p>発信側と着信側の名前 デリバリティ サービスに対する SETUP、CONNECT、および NOTIFY メッセージ内で、表示 IE のデリバリティを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
Redirecting Number IE Delivery: Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
Enable Outbound FastStart	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p> (注) Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、Media Termination Point Required、Media Resource Group List、および Codec for Outbound FastStart を設定する必要があります。</p>
Codec For Outbound FastStart	<p>ドロップダウン リスト ボックスを使用して、発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するための、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> G711 u-law 64K (デフォルト) G711 a-law 64K G723 G729 G729AnnexA G729AnnexB G729AnnexA-AnnexB <p> (注) Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。Codec For Outbound FastStart を選択する前に、Save をクリックすることが必要になる場合があります。</p>

追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

Analog Access ゲートウェイの設定値

表 69-8 では、Analog Access ゲートウェイ（Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS Gateway）の設定値について説明します。

表 69-8 Analog Access ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
MAC Address	<p>ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。</p> <p>12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。</p>
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された（発信）番号のルート指定方法を決定するために検索される、パーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された（発信）番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。

表 69-8 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Network Locale	ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。  (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。
Port Selection Order	ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、 Top Down を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Top Down : ポート 1 からポート 8 まで降順にポートを選択します。 • Bottom Up : ポート 8 からポート 1 まで昇順にポートを選択します。
Load Information	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。 このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルトファームウェア ロードを上書きします。
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。 送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。 受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。  (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。

表 69-8 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報	
MLPP Domain	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値から継承されます。
MLPP Indication	このデバイス タイプには、この設定はありません。
MLPP Preemption	このデバイス タイプには、この設定はありません。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco VG248 Gateway の設定値

表 69-9 では、Cisco VG248 Gateway の設定値について説明します。

表 69-9 Cisco VG248 Gateway の設定値

フィールド	説明
MAC Address (Last 10 Characters)	<p>Cisco VG248 のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway 用の MAC アドレスは 1 つしかありませんが、Cisco CallManager はすべてのデバイスについて固有の MAC アドレスを要求します。MAC アドレスの 10 桁だけを入力すると、Cisco CallManager はゲートウェイ用の MAC アドレスを使用し、それに追加情報を加えて VGC 電話機用の MAC アドレスを作成することができます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号が追加され、MAC アドレスの先頭に VGC が追加されます。</p> <p>EXAMPLE MAC Address for the Cisco VG248 is 0039A44218 the MAC address for registered port 12 in Cisco CallManager is VGC0039A4421812</p>
Description	Cisco CallManager は、MAC アドレスの直前に VGCGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。
Load Information	設定中の Cisco VG248 のファームウェアバージョンを入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。
Configured Slots, VICs and Endpoints	
 <p>(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、Save をクリックしてください。</p>	
48_PORTS	エンドポイント ID のリストから、VGC_Phone ポートを設定するためのポートを 1 つ選択します。

追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

表 69-10 では、Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値について説明します。

表 69-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
MAC Address (last 10 Characters)	<p>ゲートウェイのメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。<i>sccp local</i> IOS コマンドがゲートウェイで指定するインターフェイスの MAC アドレスを使用します。数字 (0 ~ 9) および A ~ F の大文字を指定できます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) にスロット、サブユニット、およびポートの 3 桁のマッピングが追加されます。</p> <p>EXAMPLE MAC Address for the gateway is 0006D7E5C7 The MAC address in Cisco CallManager is 0006D7E5C7281 where 281 is the three-digit mapping of the slot/subunit/port. The values 2,8 and 1 can be hex digits and each do not necessarily correspond to slot, subunit and port values.</p> <p>電話機のデバイス タイプを示すため、MAC アドレスの前に次の 2 文字が挿入されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BR : BRI 電話機 • AN : アナログ電話機 <p>また、ゲートウェイ名に対して SKIGW も挿入されます。</p>
Description	<p>Cisco CallManager は、MAC アドレスの直前に SKIGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。説明は上書きできます。</p>
Cisco CallManager Group	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco CallManager 冗長グループには、最高 3 台の Cisco CallManager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、プライマリ Cisco CallManager の役目をします。プライマリ Cisco CallManager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco CallManager に接続しようとします。</p>

Configured Slots, VICS and Endpoints



(注) VIC の開始ポート番号を指定する必要なものがあります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC では 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) する必要があります。



(注) SCCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます。



(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、**Save** をクリックしてください。

表 69-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Module in Slot 0 Module in Slot 1 Module in Slot 2 Module in Slot 3	<p>選択した SCCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。次のモジュールがサポートされます。</p> <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットあり) :</p> <ul style="list-style-type: none"> • NM-2V : FXS-SCCP 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • NM-HD-2V : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • NM-HD-2VE : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットなし) :</p> <ul style="list-style-type: none"> • NM-HDA-4FXS : VIC なしで直接 4 つの FXS を装備。最大 2 つまでの拡張モジュール EM-HDA-8FXS で拡張することにより、FXS ポートを 16 個サポートできます。 • EM-HDA-8FXS : NM-HDA-4FXS の拡張モジュール。 <p>音声インターフェイス カード :</p> <ul style="list-style-type: none"> • VIC-2FXS • VIC-4FXS • VIC2-2FXS • VIC2-2BRI-NT/TE <p>スロット レベルには、次の 4 つのオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NM-2V : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-2FXS-SCCP)。 • NM-HD-2V : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP)。 • NM-HD-2VE : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP)。 • NM-HDA : 3 つのサブユニットのオプション (NM-HDA-4FXS-SCCP、EM-8FXS-EM0-SCCP、EM-8FXS-EM1-SCCP)。 <p>NM-HDA の場合、これらのオプションは正式な VIC ではありません。VIC2-2BRI-NT/TE は、BRI SCCP 電話機専用の VIC です。VG224 GW は他のすべてと異なります。</p> <p>次のオプションは、1 つのスロットだけをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ANALOG : 1 つのサブユニットのオプション (24FXS-SCCP)。24 個の FXS ポートをサポート。 <p>オプション None は、ネットワーク モジュールが装備されていないことを意味します。</p>

表 69-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
プロダクト固有の設定	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ポートの設定値

すべてのポート タイプ設定フィールドの詳細については、次の各トピックの表を参照してください。

- POTS ポートの設定値 (P.69-61)
- ループ スタート ポートの設定値 (P.69-63)
- グラウンド スタート ポートの設定値 (P.69-64)
- E & M ポートの設定値 (P.69-65)

ゲートウェイの設定値の詳細については、P.69-16 の「ゲートウェイの設定値」を参照してください。

POTS ポートの設定値

表 69-11 では、POTS ポートの設定値について説明します。

表 69-11 POTS ポートの設定値

フィールド	説明
ポートの選択	
Port Type	POTS ポートの場合、このフィールドには <i>POTS</i> が表示されます。
Beginning Port Number Ending Port Number	<p>Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、Beginning Port Number と Ending Port Number に適切な値を選択します。 • 1 つのポートを作成するには、Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドの両方に All Ports を選択します。
ポートの詳細	
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Inbound : 着信コールのみの場合に使用します。 • Outbound : 発信コールのみの場合に使用します。 • Bothways : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
Audio Signal Adjustment into IP Network	<p>ポート アプリケーション タイプに関連した受信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。</p> <p> (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。</p>
Audio Signal Adjustment from IP Network	<p>ポート アプリケーション タイプに関連した送信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。</p> <p> (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。</p>

表 69-11 POTS ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Prefix DN	このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。 Cisco CallManager は、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。
Num Digits	収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。 Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。 このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。
Expected Digits	トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。
Call Restart Timer (1000-5000 ms)	Call Restart Timer (1000 ~ 5000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
Offhook Validation Timer (100-1000ms)	Offhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
Onhook Validation Timer (100-1000ms)	Onhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
Hookflash Timer (100 - 1500 ms)	Hookflash Timer (100 ~ 1500ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
SMDI Port Number (0-4096)	ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。 SMDI Port Number は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。  (注) ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致している必要があります。
Unattended Port	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、 Product Specific Configuration 見出しの右にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

ループ スタート ポートの設定値

表 69-12 では、ループ スタート ポートの設定値について説明します。

表 69-12 ループ スタート ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、 Loop Start を選択します。
Beginning Port Number Ending Port Number	<p>Port Number フィールドと End Port Number フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートの範囲を指定するには、Beginning Port Number と Ending Port Number に適切な値を選択します。 1つのポートを作成するには、Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドに同じ番号を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドの両方に All Ports を選択します。
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Inbound : 着信コールのみの場合に使用します。 Outbound : 発信コールのみの場合に使用します。 Both Ways : 着信コールと発信コールに使用します。
Attendant DN	着信コールを転送する先の電話番号を入力します（たとえば、ゼロ、または代表電話番号）。
Unattended Port	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

グラウンドスタート ポートの設定値

表 69-13 では、グラウンドスタート ポートの設定値について説明します。

表 69-13 グラウンドスタート ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、 Ground Start を選択します。
Beginning Port Number Ending Port Number	<p>Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、Beginning Port Number と Ending Port Number に適切な値を選択します。 • 1 つのポートを作成するには、Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドの両方に All Ports を選択します。
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Inbound : 着信コールのみの場合に使用します。 • Outbound : 発信コールのみの場合に使用します。 • Both Ways : 着信コールと発信コールに使用します。
Attendant DN	着信コールをルーティングする先の番号を入力します (たとえば、ゼロ、または代表電話番号)。
Unattended Port	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

E & M ポートの設定値

E & M (Ear and Mouth) ポートは、PBX トランク回線 (専用回線) の接続を可能にします。E & M は、2 線式、4 線式、および 6 線式の電話機とトランクのインターフェイス用のシグナリング技術です。

表 69-14 では、E & M ポートの設定値について説明します。

表 69-14 E & M ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リストボックスから、 EANDM を選択します。
Beginning Port Number	Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、Beginning Port Number と Ending Port Number に適切な値を選択します。 • 1 つのポートを作成するには、Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、Beginning Port Number フィールドと Ending Port Number フィールドの両方に All Ports を選択します。
Ending Port Number	
ポートの詳細	
Port Direction	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Inbound : 着信コールのみの場合に使用します。 • Outbound : 発信コールのみの場合に使用します。 • Both Ways : 着信コールと発信コールに使用します。
Calling Party Selection	ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。
Caller ID Type	発信者 ID のタイプとして次のどちらかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ANI: このタイプは、発信者 ID のタイプとして Asynchronous Network Interface (ANI) を使用する場合に選択します。 • DNIS : このタイプは、発信者 ID のタイプとして Dialed Number Identification Service (DNIS) を使用する場合に選択します。

表 69-14 E & M ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Num Digits	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、Sig Digits チェックボックスがオンである場合に使用します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN および Sig Digits を参照してください。</p>
Expected Digits	<p>トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。</p>
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

特定のゲートウェイの検索

ネットワーク内には無数のゲートウェイが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のゲートウェイを見つけることができます。固有のゲートウェイを特定するには、次のトピックを参照してください。

- デバイス名による検索 (P.69-67)
- 説明による検索 (P.69-68)
- 電話番号およびルート パターンによる検索 (P.69-69)
- コーリング サーチ スペースによる検索 (P.69-70)
- デバイス プールによる検索 (P.69-71)
- ルート グループによる検索 (P.69-73)
- デバイス タイプによる検索 (P.69-74)



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ゲートウェイの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ゲートウェイの検索設定は保持されます。

デバイス名による検索

特定のゲートウェイのデバイス名が分かっている場合、または Cisco CallManager に登録されているゲートウェイすべてのリストを表示する場合の手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **Name** を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

ステップ 4 Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明) (該当する場合)
- Device pool (デバイス プール) (該当する場合)

■ 特定のゲートウェイの検索

- Status (状況)
- IP Address



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、**Find and List Gateways** ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。**Matching records** タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

説明による検索

Cisco CallManager に登録されている特定のゲートウェイの **Description** フィールドで使用されているキーワードが分かっている場合の手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **Description** を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

ステップ 4 **Find** をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name

- Description (説明) (該当する場合)
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、**Find and List Gateways** ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。**Matching records** タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話番号およびルートパターンによる検索

Cisco CallManager に登録され、特定の内線番号または内線番号の範囲に割り当てられるゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **DN/Route Pattern** を選択し、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

ステップ 4 Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイスアイコン)
- Device Name
- Description (説明) (該当する場合)
- Extension (内線番号)
- Partition
- Status (状況)
- IP Address



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

コーリング サーチ スペースによる検索

コーリング サーチ スペースに割り当てられ、Cisco CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **Calling Search Space** を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント **Find** ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のコーリング サーチ スペースを選択して、検索できます。この操作によって、選択したコーリング サーチ スペースの名前が自動的に **Find** フィールドに追加されます。

ステップ 4 **Find** をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明) (該当する場合)
- Calling Search Space
- Status (状況)
- IP Address



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、**Find and List Gateways** ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。**Matching records** タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイス プールによる検索

特定のデバイス プールに割り当てられ、Cisco CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **Device Pool** を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント **Find** ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のデバイス プールを選択して、検索できます。この操作によって、選択したデバイス プールの名前が自動的に **Find** フィールドに追加されます。

ステップ 4 **Find** をクリックします。

検索されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明) (該当する場合)
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、**Find and List Gateways** ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。**Matching records** タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルート グループによる検索

特定のルート グループに割り当てられ、Cisco CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **Route Group Name** を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、既存のルート グループを選択して、検索できます。この操作によって、選択したルート グループの名前が自動的に Find フィールドに追加されます。

ステップ 4 Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device name (port) (デバイス名 (ポート))
- Description (説明) (該当する場合)
- Route Group (Priority) (ルート グループ (優先順位))
- Status (状況)
- IP Address



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除またはリセットできます。ゲートウェイを削除する場合は **Delete Selected** を、ゲートウェイをリセットする場合は **Reset Selected** をクリックします。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

デバイス タイプによる検索

特定のゲートウェイのデバイス タイプが分かっている場合、または特別なデバイス タイプのゲートウェイをすべて表示する場合の手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **Device Type** を選択し、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント **Find** ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のデバイス タイプを選択して、検索できます。この操作によって、選択したデバイス タイプの名前が自動的に **Find** フィールドに追加されます。

ステップ 4 **Find** をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明) (該当する場合)

- Device Type (デバイス タイプ)
- Status (状況)
- IP Address

**ヒント**

検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、**Find and List Gateways** ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。**Matching records** タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ゲートウェイとポートの変更

Cisco CallManager を使用して、ゲートウェイ タイプに関係なく、同様に次のタスクを実行します。

- [Dependency Records の使用方法 \(P.69-76\)](#)
- [ゲートウェイの削除 \(P.69-76\)](#)
- [ゲートウェイのリセットと再起動 \(P.69-77\)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.69-78\)](#)

Dependency Records の使用方法

ゲートウェイとポートは、パーティション、デバイス プール、電話番号など、さまざまな設定情報を使用します。ゲートウェイやポートを更新または削除する場合は、**Dependency Records** リンクを使用すると、事前にゲートウェイやポートに関する設定情報を検索できます。リンクにアクセスするには、**Related Links** ドロップダウンリスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。このリンクの詳細については、付録「[Dependency Records](#)」を参照してください。

ゲートウェイの削除

Cisco CallManager からゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルート グループで使用されているゲートウェイを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。ゲートウェイを使用しているルート グループを検索するには、**Gateway Configuration** ウィンドウの **Related Links** ドロップダウンリスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、**Dependency Records Summary** ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。現在使用されているゲートウェイを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループすべてに、別のゲートウェイを割り当てる。[P.33-7 の「ルート グループへのデバイスの追加」](#)を参照してください。
- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループを削除する。[P.33-9 の「ルート グループの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

ステップ 3 **Find** をクリックします。

検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。

ステップ 4 削除するゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 **Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 6 ゲートウェイを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



ヒント ウィンドウ内のゲートウェイをすべて削除するには、**Select All** をクリックし、**Delete Selected** をクリックします。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ゲートウェイのリセットと再起動

Cisco CallManager を使用してゲートウェイをリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

ステップ 3 **Find** をクリックします。

検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。

ステップ 4 リセットするゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 **Reset Selected** をクリックします。

Device Reset ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 次のいずれかの項目をクリックします。

- **Restart** : デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
- **Reset** : デバイスをシャットダウンしてから起動する。
- **Close** : 何の処理も実行せずに前のウィンドウに戻る。



(注) H.323 ゲートウェイの再起動やリセットは、ゲートウェイをハードウェア的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco CallManager によってロードされた設定を初期化するだけです。H323 以外のタイプのゲートウェイをリセットすると、Cisco CallManager が、そのゲートウェイを使用しているコールを自動的に終了します。H323 以外のタイプのゲートウェイを再起動すると、Cisco CallManager が、そのゲートウェイを使用しているコールを保持しようとします。

追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

ゲートウェイとポートの更新

Cisco CallManager からゲートウェイの更新、またはゲートウェイ ポートの再設定を行う手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

ステップ 3 Find をクリックします。

検出されたデバイスが表示されます。

ステップ 4 更新するゲートウェイの Device Name をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切なゲートウェイまたはポートの設定値を更新します (次のトピックを参照)。

ゲートウェイ ポートにアクセスするには、そのゲートウェイ ポートのアイコンをクリックするか、選択されたゲートウェイの設定ウィンドウの左側にある MGCP エンドポイントのリンクをクリックします。

- [MGCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-16\)](#)
- [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-18\)](#)
- [Digital Access PRI ポートの設定値 \(P.69-22\)](#)
- [Digital Access T1 の設定値 \(P.69-42\)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \(P.69-54\)](#)
- [ポートの設定値 \(P.69-61\)](#)

ステップ 6 Save をクリックします。

ステップ 7 Reset をクリックし、ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

すべてのゲートウェイ タイプ

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.69-2\)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.69-16\)](#)
- [特定のゲートウェイの検索 \(P.69-67\)](#)
- [デバイス名による検索 \(P.69-67\)](#)
- [説明による検索 \(P.69-68\)](#)
- [電話番号およびルート パターンによる検索 \(P.69-69\)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \(P.69-70\)](#)
- [デバイス プールによる検索 \(P.69-71\)](#)
- [ルート グループによる検索 \(P.69-73\)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \(P.69-74\)](#)
- [Dependency Records の使用方法 \(P.69-76\)](#)
- [ゲートウェイとポートの変更 \(P.69-76\)](#)
- [ゲートウェイの削除 \(P.69-76\)](#)
- [ゲートウェイのリセットと再起動 \(P.69-77\)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.69-78\)](#)

IOS MGCP ゲートウェイ

- [Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 \(P.69-3\)](#)
- [MGCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-16\)](#)
- [ポートの設定値 \(P.69-61\)](#)
- 『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「[ゲートウェイの設定チェックリスト](#)」

SCCP ゲートウェイ

- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 \(P.69-9\)](#)
- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-58\)](#)

IOS 以外の MGCP ゲートウェイ

- [IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 \(P.69-11\)](#)

H.323 ゲートウェイ

- [Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 \(P.69-12\)](#)
- [H.323 ゲートウェイの設定値 \(P.69-46\)](#)

Analog Access ゲートウェイ

- [Analog Access ゲートウェイとポートの追加 \(P.69-13\)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \(P.69-54\)](#)
- [Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 \(P.69-14\)](#)
- [Cisco VG248 Gateway の設定値 \(P.69-57\)](#)
- [Cisco VG248 Analog Phone Gateway ソフトウェア コンフィギュレーションガイド](#)

BRI ゲートウェイ

- [BRI ゲートウェイの設定値 \(P.69-34\)](#)
- 『[Cisco CallManager システム ガイド](#)』の「MGCP BRI コール接続」
- 『[Cisco CallManager システム ガイド](#)』の「MGCP BRI ゲートウェイの設定チェックリスト」

ポート

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.69-5\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.69-6\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.69-9\)](#)
- [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-18\)](#)
- [Digital Access PRI ポートの設定値 \(P.69-22\)](#)
- [Digital Access T1 の設定値 \(P.69-42\)](#)
- [POTS ポートの設定値 \(P.69-61\)](#)
- [ループ スタート ポートの設定値 \(P.69-63\)](#)
- [グラウンド スタート ポートの設定値 \(P.69-64\)](#)
- [E & M ポートの設定値 \(P.69-65\)](#)

電話機と電話番号

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.70-1\)](#)
- [電話機の設定値 \(P.70-7\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.49-1\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.49-9\)](#)